

メキシコ経済不透明感

成長率鈍化 主力の自動車に多難

【メキシコシティ＝清水孝輔】メキシコ経済の先行きが不透明になった。7～9月期の実質国内総生産（GDP）の確定値は前年同期比4・7％増で、前四半期（19・6％増）に比べ回復ペースが鈍化した。自動車産業の落ち込みが響いた。バイデン米政権による国産の電気自動車（EV）優遇策が実現すれば、さらに大きな打撃を受けそうだ。

7～9月期のGDPは国立統計地理情報院（I

NEGI）が25日発表した。前の四半期比では0・4％減で、5四半期ぶりのマイナス成長に落ち込んだ。最大の要因はGDPの2割を占める自動車産業の落ち込みだ。INEGIによると、7～9月の自動車生産台数は66万6975台で、前年同期比で27％減った。半導体不足やサプライチェーン（供給網）の混乱などが影響した。

メキシコの自動車産業は今後も多難だ。バイデ

ン政権は従業員が米国の労働組合に加盟する工場で生産したEVを購入するユーザーの税額控除を大幅に引き上げる法案の成立をめざす。実現すればメキシコから米国に輸出するEVが不利な扱いを受ける。

メキシコ経済のもう一つのエンジンはエネルギー産業だったが、産油量の減少傾向が続いており、2020年時点で石油・ガスがGDPに占める割合は2％程度だ。